

日本保健物理学会若手研究会の活動  
及び  
JHPS/JRSMの若手学会員を対象とした  
学会連携に関するアンケート調査結果の概要  
について

中畠 純也

(日本原子力研究開発機構)

## 日本保健物理学会若手研究会の活動

### ○勉強会

- ・【～2019年】年1回程度、話題性のあるテーマ、キャリアパスなどについての勉強会、施設見学。
- ・【2020年10月～2022年4月】月1回程度、計15回、オンライン形式でICRP内部被ばくモデル（OIRシリーズ）に関する勉強会。
- ・「次期主報告のより深い理解のための勉強会」（本日15時50分からの若手研セッションにて）



眼の水晶体の防護に関する勉強会の様子（2019年9月）

### ○千葉市科学フェスタへの出典

- ・アウトリーチ活動として2021年までに計10回出展。
- ・霧箱による飛跡の観察、紫外線によるコースター製作、自然放射線の測定などを実施。



出典時の様子  
（2018年10月）

### ○若手研Facebook/Twitterの運営

Facebook 若手研の活動状況、若手研から  
@wakate.jhps のお知らせ、Webinar情報、アンケートの案内などを発信。

Twitter 放射線防護に関する情報、若手  
@jhps\_yra 研メンバーの研究実績、学生の研究活動の様子などを発信。

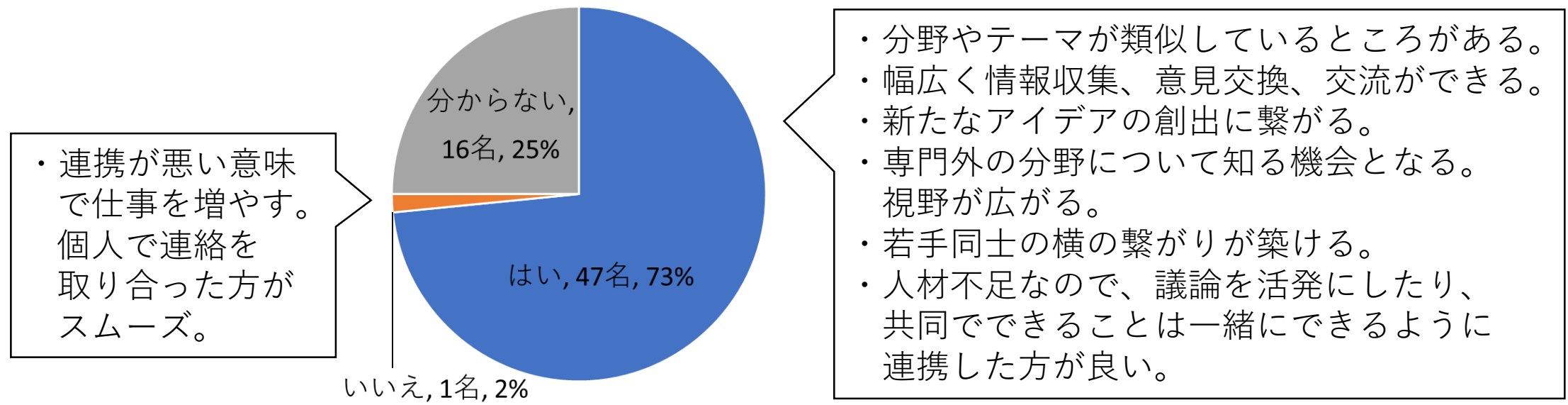
## JHPS/JRSMの若手学会員を対象とした学会連携に関するアンケート調査結果の概要

実施期間：2021年10月27日～11月8日

対象者：JHPS/JRSMの40歳以下の若手学会員

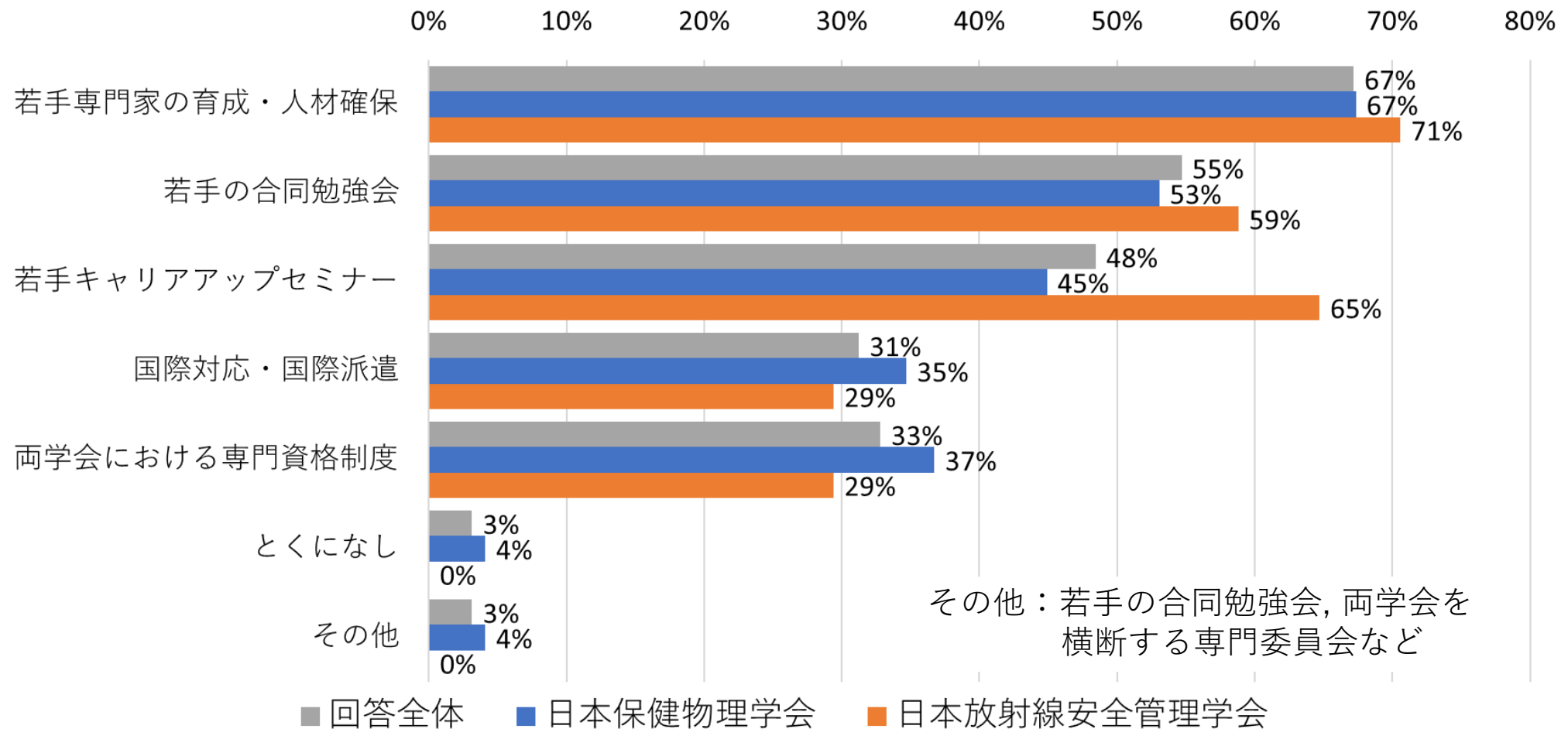
回答数：64名（JHPS所属：47名、JRSM所属：15名、両学会に所属：2名）

### Q.両学会の連携は若手学会員にとって有益だと思いますか？



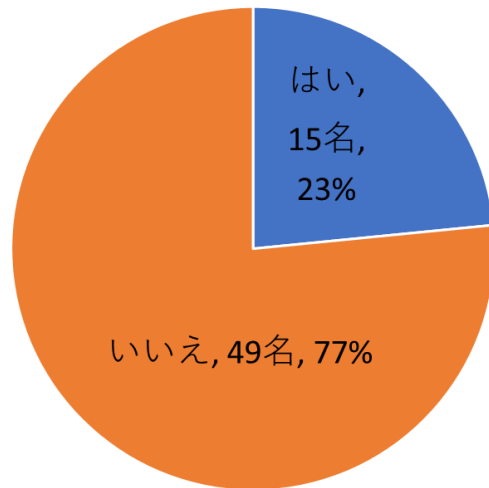
# JHPS/JRSMの若手学会員を対象とした学会連携に関するアンケート調査結果の概要

Q.両学会の連携において、「日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会の開催」の他に、どのような取り組みが可能だと思いますか？（複数回答）



## JHPS/JRSMの若手学会員を対象とした学会連携に関するアンケート調査結果の概要

Q.一方で両学会の連携において、連携が難しい取り組みもありますか？



- ・パブリックコメント等を出す際は人数の少ないJRSMの意見が見えなくなる。
- ・各々の業務量が多く、連携の仕事までこなせるのか。
- ・合同勉強会は、分野が異なる若手同士でもしっかりコンセンサスを形成し、積極的な参加を促す必要がある。
- ・企画や運営は、それぞれの独立性、特色が失われる。
- ・JRSMを立ち上げたのには意義があるはず。

Q.今後の学会に求めたいものがありましたら、教えてください。

- ・放射線測定の専門家の育成や人材確保。
- ・アンブレラ事業のようなオンラインセミナー。
- ・JHPS/JRSMとも、発表することのメリットを感じられるような強みや専門性を明確にする。
- ・WEB開催時のオンデマンド視聴。
- ・規制量未満でのRI利用の議論。（管理区域はなくても、RI取扱いの知識は継承できる。）
- ・教員の実績として大きなウェイトとなる研究費獲得や国際論文報告の場が少なく、サポートを期待。
- ・学術研究の活性化

ご清聴いただきありがとうございます